

## 令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 一人ひとりの夢と志を育み、よりよい未来社会を創り出す学校

- 1 「進取・創造・敬愛」の校訓のもと、早くから興味・関心の現れやすい「4つの分野(ものづくり<理工>、スポーツ、言語、芸術<美術・デザイン>)」の才能を6年間の計画的・継続的な一貫教育で伸ばし、「大阪の発展を担う将来のスペシャリスト」を育成する。
- 2 安全・安心な教育環境のもと、専門性・多様性・交流性・一貫性を生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、確かな学力や高め合う集団、自主自立の習慣を育成し、学びと育ちの質を高めながら一人ひとりの個性を磨き、生きる力の伸長をめざす。
- 3 併設の咲くやこの花高等学校(以降、高等学校)や地域社会、専門機関等の様々な人々との連携・協働を通して、一人ひとりのキャリア発達を促すとともに、豊かな人権感覚を育み、夢と志の実現に向けて、新たな価値を創造する意欲や態度を培う。

## 2 中期的目標

## 1. 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める

## (1) 確かな学力を育成する

- ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。
- イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。
- ウ 学力調査(全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査)を活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、一人ひとりの資質・能力のよりいっそうの定着を図る。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校のさまざまな取組で、考える力や自主性をのばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5:90% R6:92% R7:92%)

## (2) 高め合う集団を育成する

- ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。
- イ 学級活動や分野別学習等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。
- ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、学級活動や学校行事を通して、楽しく信頼できる仲間づくりを心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5:87% R6:89% R7:94%)

## (3) 自主自立の習慣を育成する

- ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。
- イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。
- ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は生徒がルールを守るように適切な指導をしている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度には95%にする。(R5:94% R6:94% R7:90%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、授業の宿題や課題に対して積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで85%以上を維持する。(R5:83% R6:85% R7:85%)

## 2. 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う

## (1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる

- ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行)や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。
- イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、高等学校での系列学習につながるような分野別学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5:88% R6:89% R7:91%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで95%以上を維持する。(R5:95% R6:96% R7:98%)

## (2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う

- ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。
- イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。

※全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度までに80%以上を達成し、維持する。(R5:75% R6:76% R7:85%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「将来の進路や職業について考えている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度までに75%以上を達成し、維持する。(R5:76% R6:76% R7:75%)

## 3. 安全で、安心して学べる学校づくりに努める

## (1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める

- ア いじめについてのアンケートや教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。心理テストの分析結果に基づくアセスメント等を通して支援が必要な生徒を的確に把握する。
- イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5:92% R6:91% R7:90%)

## (2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する

- ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。
- イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は健康管理の指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5:86% R6:88% R7:96%)

## (3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う

- ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。
- イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は相手を思いやり人権を大切にする生徒の育成に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5:89% R6:91% R7:80%)

## 4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める

## (1) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う

- ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。
- イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。
- ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、雰囲気がよく生徒がいきいきと学校生活を送っている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度までに95%以上にする。(R5:94% R6:95% R7:92%)

## (2) 情報発信・研究活動を充実させる

- ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。
- イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。

※(生徒対象) 学校教育自己診断、「咲くやこの花中学校へ入学してよかった」の項目で、肯定的な回答の割合を令和10年度までに95%以上にする。(R5:93% R6:94% R7:91%)

## 5 労働安全衛生管理体制の充実

## (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する

- ア 校務運営について業務の見直しやICTを用いて効率化を図る。
- イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。
- ウ ゆとり週間等の取組を通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。

※年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。

※月の時間外在校等時間が45時間を超える教育職員数をゼロにする。

※年次有給休暇の平均取得日数を16日以上にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める	(1) 確かな学力を育成する	ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。 イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。 ウ 学力調査(全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査)などを活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、基礎学力、言語能力のよりいっそうの定着を図る。	ア 主体的・対話的で深い学びの視点を生かした校内研究授業を全員の教員が年間2回以上実施する。 [全員が2回実施] イ (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、1人1台端末を効果的に活用している」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [87%] ウ (生徒対象)学校教育自己診断、「日々の学習を通して学力の向上が感じられる」の項目で、肯定的な回答の割合80%以上を維持する。 [81%]	
	(2) 高め合う集団を育成する	ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。 イ 学級活動や分野別学習、部活動等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。	ア 中高合同授業を1回以上設定する。 [2回] イ 全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがあると思いますか」の	

	(3) 自主自立の習慣を育成する	<p>ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。</p> <p>ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。</p> <p>イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。</p> <p>ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。</p>	<p>項目で、肯定的な回答の割合について 80%以上を維持する。 [86%]</p> <p>ウ (生徒対象) 学校教育自己診断、「学校の様々な取り組みで、考える力や自主性を伸ばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合について 90%以上を維持する。 [92%]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「日々の学校生活を通して、正しい学習態度が身につくよう努力している」の項目で、肯定的な回答の割合について 85%以上を維持する。 [87%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「学校のルールをすすんで守るように心がけている。」の項目で、肯定的な回答の割合について 85%以上を維持する。 [95%]</p> <p>ウ 図書館や読書活動を活用した教育活動を 2 回以上実施する。 [3 回]</p>	
2 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う	<p>(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる</p> <p>(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う</p>	<p>ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学&lt;研修&gt;旅行) や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。</p> <p>イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。</p> <p>ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。</p> <p>イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。</p>	<p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「高校での系列学習につながるよう分野学習に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答の割合について 85%以上を維持する。 [91%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、部活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を 95%以上にする。 [94%]</p> <p>ア 高校生や卒業生による進路に関する講話を全学年で 1 回以上実施する。 [1 回]</p> <p>イ 外部の専門機関と連携したキャリア教育を 3 年生で 3 回以上実施する。 [3 回]</p>	

<p style="text-align: center;">3 安全で、安心して学べる学校づくりに努める</p>	<p>(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める</p> <p>(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する</p> <p>(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う</p>	<p>ア いじめについてのアンケートや心理テスト、教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。</p> <p>イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。</p> <p>ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。</p> <p>イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。</p> <p>ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。</p> <p>イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。</p>	<p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合について 90%以上を維持する。 [90%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目で、肯定的な回答の割合について 90%以上を維持する。 [95%]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、自分の健康管理を心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 [84%]</p> <p>イ (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的な回答の割合について、80%以上にする。 [70%]</p> <p>ア (生徒対象) 学校教育自己診断、「私は、相手を思いやり人権を大切にすることができている」の項目で、肯定的な回答の割合について 90%以上を維持する。 [95%]</p> <p>イ 人権をテーマとする総合的な学習を 2 回以上実施する。 [3回]</p>	
<p style="text-align: center;">4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める</p>	<p>(1) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う</p> <p>(2) 情報発信・研究活動を充実させる</p>	<p>ア 授業参観（各教科・分野別学習）や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。</p> <p>イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。</p> <p>ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。</p> <p>ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。</p>	<p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校の授業参観や学校行事に参加して、子どもの様子が把握できている」の項目で、肯定的な回答の割合について 85%以上を維持する。 [93%]</p> <p>イ 外部の機関と連携した教育活動を 5 回以上実施する。 [10回]</p> <p>ウ 清掃活動や社会啓発活動に 1 回以上取り組む。 [1回]</p> <p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、ホームページ・プリントなどで情報をよく流している」の項目で、肯定的な回答の割合について 95%にする。 [85%]</p>	

## 府立咲くやこの花中学校

		イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。	イ 先進的な研究校への視察を2回以上実施する。 [2回]	
5 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する	ア ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 イ 部活動の年間・月間実施計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、部活動方針に則った適切な活動とする。 ウ ゆとり週間・月間の徹底に取組み年休取得を促進する。	ア 年間の時間外在校等時間が720 時間を超える教育職員をゼロにする。 イ 月の時間外在校等時間が45 時間を超える教育職員数を5 人以内にする。 ウ 年次有給休暇の平均取得日数を12 日以上にする。	